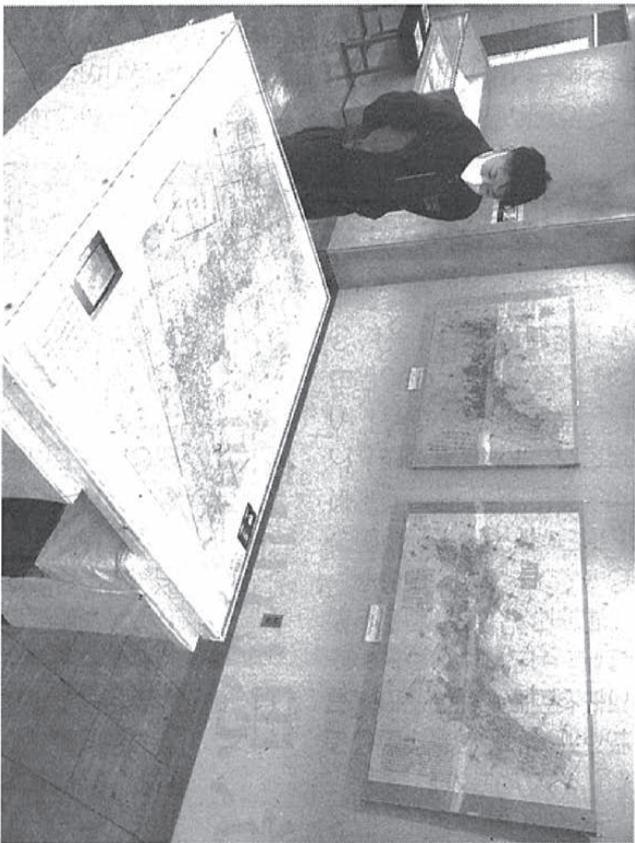


「赤水」展示充実へCF

R.6. 1月10日 茨城新聞

赤水の資料が並ぶ高萩市歴史民俗資料館＝同市高萩



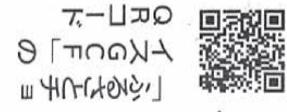
高萩市は歴史民俗資料館の展示設備や環境整備費などを見越して、今年11月に市制施行70周年を迎えるのを記念し、4月から同館の愛称を「長久保赤水記念館」と定める。愛称の追加に伴い、市内外の人に足を運んでもらい、赤水の功績を広く知ってもらおうと、ケースの購入などを決めた。

高萩市

高萩市は歴史民俗資料館の展示設備や環境整備費などを見越して、今年11月に市制施行70周年を迎えるのを記念し、4月から同館の愛称を「長久保赤水記念館」と定める。愛称の追加に伴い、市内外の人に足を運んでもらい、赤水の功績を広く知ってもらおうと、ケースの購入などを決めた。

ケース購入や照明改修

高萩市は歴史民俗資料館の展示設備や環境整備費などを見越して、今年11月に市制施行70周年を迎えるのを記念し、4月から同館の愛称を「長久保赤水記念館」と定める。愛称の追加に伴い、市内外の人に足を運んでもらい、赤水の功績を広く知ってもらおうと、ケースの購入などを決めた。



8. 政課 ☎0293(23)211 (高田尚輝)

令和5年度 高萩市社会科郷土自由研究作品展

赤水賞受賞者 令和5年11月22日(敬称略)

「長久保赤水と日本地図」

秋山小学校2年
小茂田 珀翔

「赤水の秘密」

秋山中学校1年 吉田 進之介
土田 莉音 齋藤 俊太郎
金子 海斗 齋藤 珠史





領土・主権展示館 企画展



地図・海図編纂にみる
領土・海洋認識の変遷

日本 の 描 か た ち の を

2024
2 | 6 火
4 | 14 日

入場無料



柳橋悦(やなぎはらよし)

【会場】領土・主権展示館 【開館時間】10:00-18:00

【休館日】月曜日(ただし、2/12(月・祝)は開館)、2/13(火)、3/3(日)

【所在地】東京都千代田区霞が関3-8-1 【電話番号】03-6257-3715

@ryodoshuken <https://www.cas.go.jp/ryodo/tenjikan> ※詳細はホームページをご覧ください。

内閣
官房
領土・主権
対策企画調整室

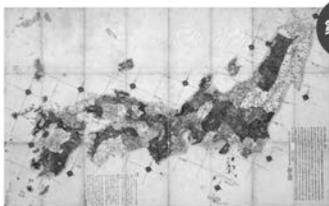
領土・主権展示館
NATIONAL MUSEUM OF
TERRITORY AND SOVEREIGNTY



上から:伊能忠敬肖像(所蔵:千葉県香取市伊能忠敬記念館)/大学南校「官報東洋日本地図」(1870年)(所蔵:国土地理院)/シルビア号(所蔵:海上保安庁)/豊海舟「大日本国沿海略図」(1867年)(所蔵:国土地理院)/柳橋悦(所蔵:海上保安庁)/豊海舟(出典:国立国会図書館「近代日本人の肖像」(<https://www.ndl.go.jp/portrait/>))



豊海舟



第一章

長久保赤水「改正日本輿地路程全図 初版」(1780年)
所蔵:高萩市歴史民俗資料館

交通のご案内

- 東京メトロ銀座線「虎ノ門駅」3番出口より徒歩1分
- 東京メトロ日比谷線「虎ノ門ヒルズ駅」A2出口より徒歩5分
- 東京メトロ丸ノ内線・日比谷線・千代田線「霞ヶ関駅」A13出口より徒歩5分

領土・主権展示館

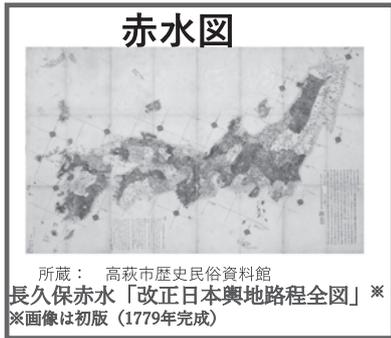
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-8-1
tel: 03-6257-3715
ホームページ:
<https://www.cas.go.jp/ryodo/tenjikan>



領土・主権展示館企画展 「日本の「かたち」を描く —地図・海図編纂にみる領土・海洋認識の変遷—」

(見どころ) 英国海図をより正確なものとするに寄与した赤水図と伊能図

19世紀、英国海軍水路部は、欧米海事国間の海図情報の共有化を提唱し、主要海事国の賛同を得てこれを推進。世界の海図刊行をリード。日本周辺を扱った最初の本格的な英国海図である2347号には、長久保赤水と伊能忠敬の知見が活かされている。



※ 小林茂ほか編『鎖国時代 海を渡った日本図』（大阪大学出版会、2019年）及び小林茂・鳴海邦匡「近世日本で作製された絵図のヨーロッパにおける利用」『大阪観光大学研究論集』第21号（2021年3月）

クルーゼンシュテルンは、赤水図の地図投影法や経緯度表示を研究。赤水図は、「日本帝国図」の日本列島の骨格を示す図として採用される。※



日本周辺を扱った最初の本格的な英国海図である2347号のもっとも重要な原図として採用される。

英国海図 2347号

英国海図2347号「日本：本州・九州・四国・朝鮮海岸の一部」（1855年）



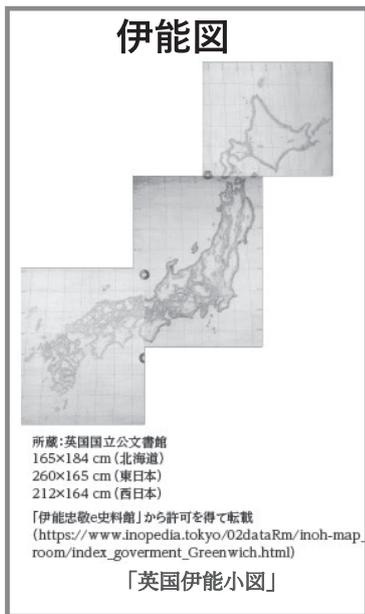
英国海図2347号「日本：本州・九州・四国・朝鮮の一部」（1863年改訂版）



英国海図2347号「日本：本州・九州・四国・朝鮮の一部」（1863年改訂版）

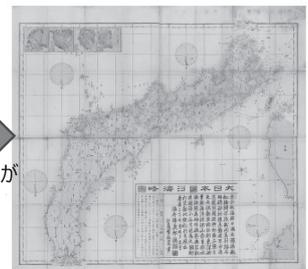
伊能図が英国海図2347号の改善に寄与したことは有名ですが、そもそもの英国海図2347号が赤水図に由来することはあまり知られていません。これが今回の展示のポイントの一つです。この企画展では赤水図の紹介にあわせて、大阪大学の小林茂名誉教授や甲南大学の鳴海邦匡教授の研究をもとに、赤水図がクルーゼンシュテルンの日本地図の日本の骨格を示す図として採用されており、このクルーゼンシュテルンの日本地図が、英国海図2347号の主たる原図となっていることが紹介されています。

江戸幕府がイギリス海軍に伊能小図を渡したのは、文久元年（1861）といわれています。その半世紀以上も前の鎖国の日本から海を渡った赤水図は、日本地図の日本の骨格を示す図として採用されていたこととなります。



江戸幕府が英国海軍に提供した「英国伊能小図」を参照して英国海図2347号は改訂される。

勝海舟が翻訳。



勝海舟「大日本国沿海略図」（1867年）

地図作りの“技術と情熱”に触れる企画展

江戸時代の地図づくり 集めた赤水・歩いた伊能

会期:2024年1月13日(土)～2024年5月12日(日)

ゼンリンミュージアム(福岡県北九州市、館長:佐藤渉)は、2024年1月13日(土)～5月12日(日)まで、江戸時代を代表する地図製作者として日本の地図作りに技術と情熱を注いだ、長久保赤水(ながくぼ せきすい)と伊能忠敬(いのう ただたか)の2人の功績にフォーカスした「江戸時代の地図づくり 集めた赤水・歩いた伊能」を開催します。同時代に描かれた2人の地図を展示するゼンリンミュージアムの常設展を、新たな視点でより深く楽しんでいただくための企画展です。

■展示概要

江戸時代、全国を歩いて測量し正確無比な日本地図を作ったことで知られる「伊能忠敬」。対して、「長久保赤水」はあらゆる手段を講じ、資料や情報を集め、伊能忠敬よりも半世紀早く精巧な日本地図を完成させています。

二人の地図製作者の対照的な製作工程を比較することで、地図の目的や用途の違い、立場の違い、それぞれの地図製作に対する思いを、本企画展を通じてご紹介します。



■本企画展の見どころ

地図の製作工程に着目し、長久保赤水が地図作りの際に集めた資料や、伊能忠敬らが使った測量器具・製図道具、それらをもとに完成した「赤水図」と「伊能図」の比較などを、約30点の地図や資料で紹介합니다。



▲「集めた赤水」の章 (全体)



▲「集めた赤水」の章 (部分)



▲「改製日本分里図(輿地路程図草稿)」
長久保赤水 明和5年(1768年)
高萩市歴史民俗資料館 所蔵

「赤水図」の作り方のパネルや、長久保赤水が集めた資料などが14点紹介されている。「大日本疆域図」といった、赤水自筆の資料も展示している。

赤水が約17年の歳月をかけて製作した図。地形や地名の修正跡が残され、考証を繰り返した赤水の苦悩が見て取れる。

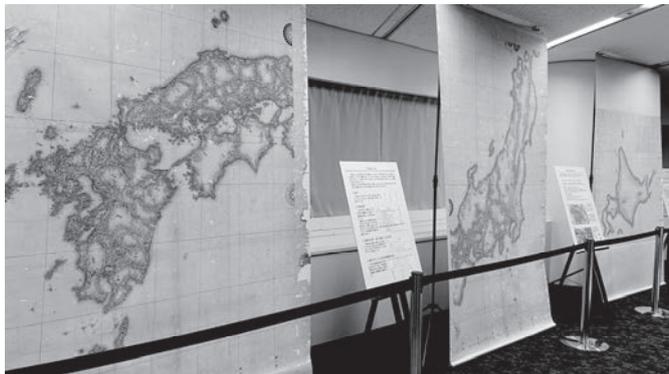
■「ゼンリンミュージアム」について (<https://www.zenrin.co.jp/museum/>)



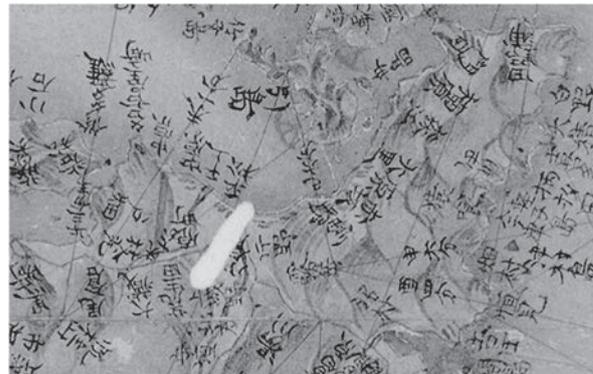
◀ゼンリンミュージアム
公式Webサイト

北九州市に本社を置く地図会社のゼンリンが手がける展示施設で、2020年6月に「地図文化の継承と振興」を目的に開館しました。常設展では、「歴史を映し出す地図の紹介」をコンセプトに、西洋製・日本製の日本地図を中心とした約120点の地図や資料を展示。それぞれの地図が作られた時代背景や作り手の思いとともに、地図の新たな魅力を発信しています。

企画展の会期中は、ゼンリンミュージアムが所蔵する「實測輿地圖(じっそくよちず)」「伊能小図」のレプリカを常設展示の第2章に展示します。本図は、伊能忠敬が製作した「大日本沿海輿地全図(だいにほんえんかいよちぜんず)」「伊能小図」の副本とみられ、地図の製作工程でできた「針穴」や地図に押捺された「地図合印」を間近で見ることができます。



▲「實測輿地圖」ゼンリンミュージアム所蔵 (レプリカ展示)



▲「實測輿地圖」小倉付近の拡大

■企画展開催概要

会期	2024年1月13日(土)～5月12日(日)
場所	ゼンリンミュージアム 多目的展示室

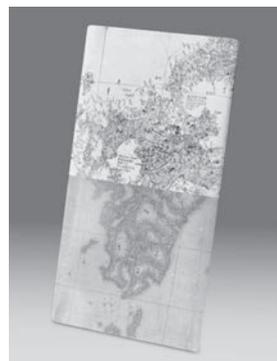
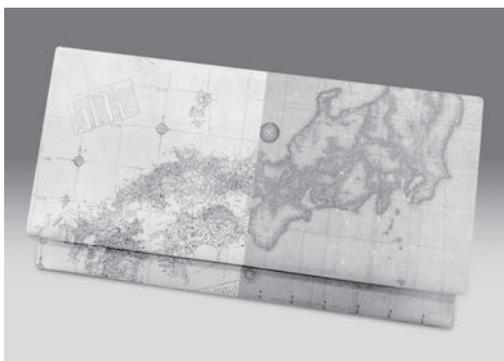
■学芸員による企画展ガイドツアー^(※)

日時	会期中の平日(休館日を除く)14:00～14:30
参加費	無料

※…ガイドツアーの事前予約は不要です。参加人数により、少人数のグループに分けて複数回実施します。

■期間限定デザインのチケットホルダー

企画展の開催期間中、有料入館者全員に期間限定デザインのチケットホルダーを配布します。展示の見どころである、長久保赤水と伊能忠敬の地図製作工程の違いや目的の対比を表現して、2枚の地図を並べたデザインとしました。



開館時間	10:00～17:00(最終入館16:30)
休館日	月曜日(ただし祝日の場合は翌平日) ※この他、年末年始等、臨時に休館することがございます。
入館料	一般1,000円(800円) ※通常の入館料で企画展もご覧いただけます。 ※保護者同伴の小学生以下は無料です。 ※かっこ内は8名以上の団体および障がい者とその同伴の方1名の料金です。 団体料金は前日までに予約いただいた場合にのみ適用します。 ※入館料には、パンフレットおよびチケットホルダーの代金を含みます。

『人間力を高める』 致知出版社の新春特別講演会とパーティーに参加してきました

十二月一日発行の月刊『致知』新春一月号に拙著「千古一業 長久保赤水七十歳の家訓」の記事を掲載していただきました。(8〜11ページも転載記事参照)

この掲載直後の一月二十七日(土)に、お誘いをいただき東京プリンスホテル「鳳凰の間」で開催された、致知出版社新春特別講演会とパーティーに参加してきました。

新春特別講演会は、愛知専門尼僧堂堂頭の青山俊薫氏・演題「生かされてご恩返しとして生かして 生きる」、作家の五木寛之氏・演題「暗愁のゆくえん」、致知出版社社長の藤尾秀昭氏・演題「先達に学ぶ」の三人の先生方から素晴らしい講演がありました。

また、パーティーでは、約千五百五十名の参加者の皆さま方との交流を図るとともに、長久保赤水先生の偉大な業績をPRしてきました。さらに、昨年、「赤水図」が中学入學試験問題に登場したことなども紹介してきました。

このパーティーには、月刊『致知』への赤水先生の記事掲載にご尽力いただいた鈴木富佐江さん(東京都…さくら着物工房主宰・長久保赤水顕彰会会員)も参加され、初めてお会いしてその感謝の意を伝えてきました。



参加された皆様と記念写真
左から2人目が鈴木富佐江さん



藤尾秀昭社長(右)と佐川会長

R6. 1月21日 茨城新聞

地図帳の使い方説明

高萩・秋山小 出版社が出前授業

地図に興味を持ってもらおうと、高萩市島名の市立秋山小(久保田将彦校長)で17日、地図帳や社会科学の教科書などを手がける出版社「帝国書院」による出前授業が行われた。4年生49人が地図帳の使い方を学び、地図の魅力に触れた。講師を務めたのは、同社の今井秀幸さん(49)と黒柳裕司さん(29)。2人は索引



地図帳の使い方説明する講師の黒柳裕司さん(高萩市島名)と黒柳裕司さん(高田尚輝)。



マンホールカード



長久保赤水顕彰会・制作動画のご案内

QRコードにスマホをかざして YouTubeへ



対談動画 長久保赤水・江戸の地図男～その謎を解説

10分で学ぶと題し赤水の人物や偉業など全体を解説しています。
共同通信：池上いぶき記者×佐川会長の対談。

<https://youtu.be/8XYrz8cGCBk> (公開)2020.8.18

10分40秒



赤水ゆかりの地歩く 高萩、北茨城

11日・旧宅や墓所 参加者募集

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717～1801年）ゆかりの地を巡る「全国赤水ウォーク！」が11日、同市や北茨城市で開かれる。主催の長久保赤水顕彰会と高萩ウォーキングクラブが、参加者を募集している。

イベントは赤水の功績を知ってもらい、健康増進にもつなげてもらおうと企画。当日は午前8時45分に北茨城市中郷町小野矢指のJR南中郷駅に集合し、同9時15分スタート。約7キロの行程で高萩市赤浜の赤水旧宅や墓所、同市高萩のJR高萩駅前の赤水像などを散策し、同所の市歴史民俗資料館を目指す。

各所で同会メンバーの解説が聞けるほか、到着地の同資料館では赤水関係資料を見ることができ、赤水への理解を深められる。当日受け付け、参加無料。問い合わせは同クラブ会長の増田洋さん ☎0800(9351)0694。

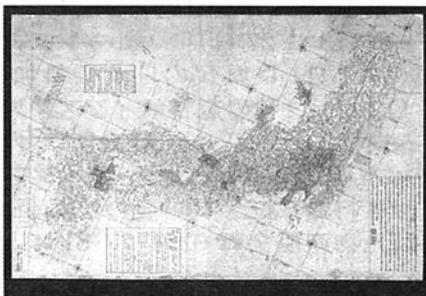
R5. 11月2日 よみうりタウンニュース

国重文「赤水資料」の修理過程を紹介

高萩市高萩の市歴史民俗資料館は、国指定重要文化財「長久保赤水関係資料」の修理過程の一端を紹介する企画展「重要文化財長久保赤水関係資料修理事業―文化財を未来に繋ぐ―」を開いている。

赤水は、同市出身の江戸時代の地理学者。遺した資料群693点は2020年9月、

改正日本輿地路程全図(高萩市提供)



「江戸時代中後期の文化史、地図史の研究上に学術的な価値が高い」などと評価され、国重文に指定された。指定資料の多くは、

高萩・市歴史民俗資料館

経年に伴う汚損が見られることから、同市は21年度から国や県の指導を得て保存修理事業を始めた。今展では、保存修理が完了した資料の一部と、今後の修理予定も紹介している。

展示は、赤水の代表作とされる刊行日本図「改正日本輿地路程全図」、自画像など12点。修理前後の資料を見比べられるように、一部には修理前の写真も展示した。

展示品の一つ、「改製日本分里図」は、改正日本輿地路程全図の原図とされる資料。自筆の図で、胡粉(ごふし)や貼り紙で修正した痕跡が数多くあり、赤水の努力がうかがえる。

会期は12月10日まで。入場無料。月曜休館(祝日の場合は開館し、翌日休館)。同館 ☎0293・231132。

※読売新聞の記事はSNS等に再録禁止です。

特集 人生の大事

GHQは、島根沖の竹島を領土から外せと政府に命じます。しかし、赤水図には竹島がはっきり描かれていました。外務省はこれを提出し、竹島は日本の領土だと主張。結果認められ、サンフランシスコ講和会議で四十九か国の署名・調印を受けます。赤水図が日本領土の確定資料となったわけです。

これらは赤水の仕事の価値を示すほんの一端です。ではなぜ、それが埋もれてしまったのか。

一つは、六十一歳で水戸藩の侍講(藩主に学問を講義し、政への助言も行う)に取り立てられた際、郷土を離れて江戸に移ったため、活躍が外に伝わりにくかったこと。もう一つは、水戸学の思想を継ぐ水戸徳川家の側近だったために、明治新政府が顕彰するわけにはいかなかったという事情でした。

二人の母から授かったもの

結婚を機に東京から居を移した私は、市の広報広聴係に配属された三十代半ば、郷土史家の先生から赤水の存在を教えられ、調べるほどにそのスケールの大きさを、独創性に魅せられていきました。

享保二(一七一七)年、赤水は常陸国の北端、奥州道浜通り脇の赤浜(現在の高萩市赤浜)に源五兵衛の名で生まれます。元は九州の大名・大友家の血筋ですが、戦に敗れ落ち延びる中で姓を改め、農民として赤浜に定住しました。

赤水の生涯は、家族との別れから始まります。四歳の時に祖父が、翌年には祖母が亡くなります。さらに八歳の時、父・善次衛門が次男だったため分家を余儀なくされると、間もなく可愛がっていた三歳の弟が夭死。翌年には母・繁が二十九歳で世を去ります。働き手を失った父はすぐ後妻に二十六歳の威を迎えますが、翌年、その父も病に侵され亡くなります。赤水は十一歳までに五人の肉親を失い、天涯孤独の身となります。

これほど悲しい目に遭えば、まいてってしまったのも不思議はありません。そうさせたものは、「二人の母」の教育でした。

実母の繁は二代目藩主の徳川光圀の乳母を輩出した名家長山家から嫁いだ女性でした。生前、家で砂を敷いたお盆に名前を書かせたり、海岸の砂に文字を書かせたりして、学問に必要な読み書きを息

子の身に遺してくれていたのです。二人目とは、継母の威です。父亡き後、惣領となった赤水は農作業をしながらも、本を読んでばかり。叔父たちから「百姓に学問は要らねえ!」と何遍も叱られますが、威は「博打や遊興をするより、趣味で学問をするほうが上等でしょう」と一歩も退かなかったとい

います。さらに、生前の善次衛門との約束を守り、死別後、実家佐藤家の両親から帰ってこいと言われても赤水を見捨てず働きました。繁に教わった読み書きと、威の慈愛がなければ、赤水は一介の農民で終わっていたかもしれませぬ。

寸陰を惜しみ五感で学ぶ

威の働きに支えられ、赤水は十四歳で4km離れた隣村、松岡城下にある儒学者で医師の鈴木玄淳の私塾に通い始めます。近隣から集った学友(松岡七賢人)と、和漢の学問を修めていきます。

ただし農作業がある以上、晴れの日には読書に耽る時間はありません。それでも懐には常に経書を忍ばせ、寸陰を惜しんで暗唱していました。野に出ると目では農村

の風景を見、手で馬の鼻取りをしながら経書の章句を口ずさみ、耳で聴きながら体に馴染ませ、鼻では野の花の匂いを感じ取る。夜には月明かりや蠟燭、線香の微かな灯りで勉学に励んだといえます。

没頭するあまり突然の雨に気づかず、干した穀物を濡らしてしまつたとの逸話も残っていますが、後に寸陰の重みを実感したのでしよう、長男・藤八郎への手紙にこうしたためています。

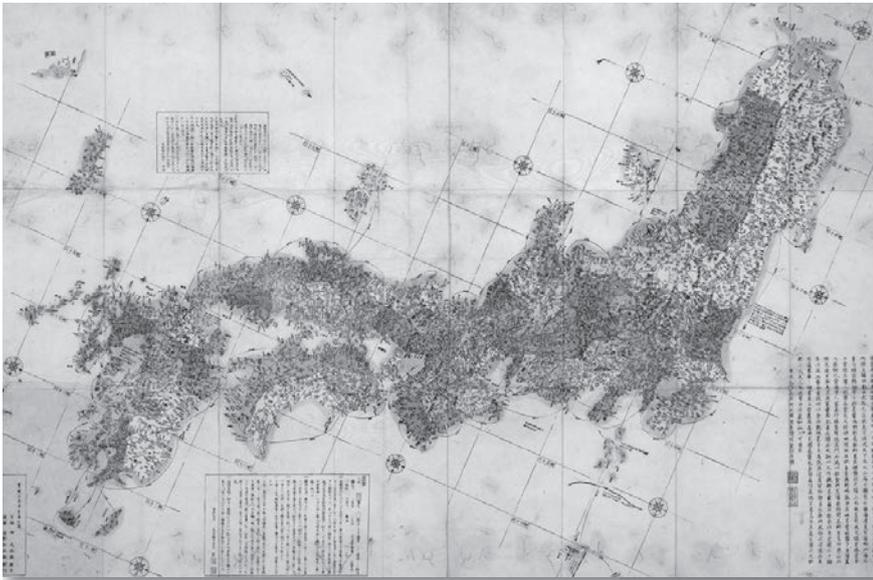
「晩年に至っても学問を捨てないという事である。ましてや若い者は少しの時間を惜しんで学問に精を出さなければならぬ。学問のない者は百歳を経ても生きた甲斐はない」

当時、儒学を修めるには半生かかると言われました。その点、松岡七賢人は各自が分担して儒学を学び、互いに談論して凄まじい早さで知識を吸収していきました。中でも裕福な農家である柴田平蔵が、赤水の江戸遊学や、本の購入を度々手助けしたようです。

それらの読み方に赤水の独創性が表れています。例えば『書経』を一冊読む時、「何ページにこう書いてある」という要点に加えて、

千古一業に生きる

長久保赤水 七十歳の家訓



三百有余年の昔、常陸国に生まれ、本格的な日本地図を製作。江戸庶民の経済活動や幕末の志士に道標を与えたのが儒学者・長久保赤水である。学問分野を跨ぐ偉業は国内外で尊敬を集めるも、明治維新を境に歴史に埋もれてきた。自筆の地図に「千古一業」（千年万年、永遠に残る一大事業）の印を捺した赤水。四十年の歳月をこの顕彰に捧げる佐川春久氏の語りから、稀有なる先人が命を燃やした大事に迫る。



長久保赤水

ながくほ・せきすい——享保2(1717)年、常陸国多賀郡赤浜村に農家の長男として生まれる。幼名は源五兵衛。15年郷医鈴木玄淳の許で学ぶ。明和5年学問の功により水戸藩の郷士格に取り立てられる。安永8年「改正日本輿地路程全図」完成。安永6年より水戸藩六代藩主・徳川治保の侍講となり、江戸に常勤する。儒学、天文学、地理学等を広く修め著作多数。帰郷後の享和元(1801)年85歳で死去。

長久保赤水顕彰会 佐川春久 会長



さがわ・はるひさ——昭和24年東京都築地生まれ。47年22歳の時、茨城県高萩市に居を移し、市役所に奉職。広報広聴係での市報制作等を通して長久保赤水の事績を知る。平成24年長久保赤水顕彰会会長(三代目)となり、県内外で講演、新聞寄稿を多数行う。監修を務めた映画「その先を往け！日本地図の先駆者長久保赤水」がYouTubeにて公開中。

—— 独創の人 長久保赤水

江戸時代中期、かの伊能忠敬より半世紀前に本格的な日本地図を完成させ、庶民の生活を向上させた人物がいます。水戸藩(茨城県)の儒学者・長久保赤水です。「えっ、そんな人がいるの?」と思う方がいても無理はありません。事実、歴史教科書に登場するのは伊能ばかりだったからです。二人の地図の違いを挙げるなら、

まず伊能図は当人たちが各地を歩いて実測した「測量図」であり、幕府に提出された後も長く秘され、明治初年まで大衆の目に触れることはありませんでした。一方の赤水図は、多数の人や資料から情報を収集し、学問的に考証に考証を重ねてできた「編集図」です。赤水以前の地図は、戦争や税の徴収に用いられた、言わば支配者の道具でした。赤水は幕府の許可を得て自らの地図を出版、それも二十四分の一に折り畳める形を採

り、たちまち江戸庶民や志士たちに広まりました。吉田松陰が旅先から兄に宛てた書簡には、「これが無くては不自由だから買い求めました」という旨が記されています。松陰は赤水を先生と仰いでおり、その没後には常陸国を訪れ、墓参をしてから東北へ旅立っています。萩の松下村塾をはじめ全国の藩校で教材とされていた事実も鑑みるに、赤水図は明治維新のエネルギーを醸成したと言えるでしょう。時は流れて戦後、進駐してきた

特集 人生の大事

家訓

「それ孝は徳の本なり。わが子孫よろしくこれを行ふべし。天の時地の利により、身を謹み用を節し、父母に事へてはよくその力を竭し、君に事へてはよくその身をいたし、朋友と交はりて言ひて信あり、広く衆を愛して仁に親づき、行ひて余力あらばすなはち以て文を学ぶ。夙に興き夜に寝ね、経を帯して耕し寸陰を惜しむ。これすなはち孝なり。不孝は五。その四肢を惰するは一なり。博奕好酒は二なり。貨財私妻子を好むは三なり。耳目の欲するに従ふは四なり。勇を好み鬪狼するは五なり。(中略)この語に事へず、専らひそかに利を貪り、色に溺るる者はわが子孫にあらざるなり。欽しめや」

仕した二年後、代表作『改正日本輿地路程全図』が誕生。原図完成から十一年後のことです。

特徴の一つは、一寸(約3cm)を十里(約40km)とした縮尺です。土地の高低や道の曲がり具合による微差は、絹糸を道に沿って置き、その長さを測れば分かるようにしてありました。広げると八十一cm×百三十cmにもなる同図は、冒頭で触れたように翌年、折り畳み式で発行されて瞬く間に広まりました。少なくとも五版を重ね、模倣版や海賊版が多数出回った記

録が残っています。

しかし、これに満足せず、誤りが見つかればすぐ直していた事実には驚かされます。藩主に仕えながらさらに十一年をかけて第二版(寛政版)を七十五歳で出版。初版(安永版)にはなかった郡分けがなされ、船乗りが使いやすいよう港から港までの距離、汐路まで書き込まれているのです。一両で一年分の米が買える時代に、彩色された二版は一枚二十五両でしたが、吉田松陰の時代には三百八十文(数千円)に値下がりしていた点にも、普及の度合いが窺えます。赤水図の凡例に、こんな落款が捺されています。「千古一業——」

農民から侍講に取り立てられた

栄達も本懐にあらざ 学問は人のために為す

「千年万年、永遠に残る一大事業だ」というメッセージでしょう。赤水は地図づくりを「人生の大事」として、さらに中国地図、世界地図など驚くような偉業を残しています。江戸時代の庶民に、日本が世界のどこに位置し、自分がいま日本のどこに立っているかを教えたのが長久保赤水なのです。としたら、まさに栄達、言うことではないはず。ただ、この人は違いました。出仕の翌年、農民に無理難題をふっかけ、年貢を取り立てる役人の不正を暴き、農民の困窮を著した『農民疾苦』を執筆。あろうことか藩主・治保に直訴するのです。農家の出で、その痛みが分かるがゆえの行動でした。普通なら一族郎党、打ち首になって不思議はありません。しかし治保公はこれを受け止め、以降は年貢の制度が改められました。学問のためなら命は厭われない、学問は人の役に立つためにあるという揺るがぬ思想が表れています。

天明二年、東北の農村を中心に襲った「天明の大飢饉」では、赤水の進言で義倉を設けるなど事前に策を講じ、水戸藩の餓死者は最小限で済みます。それゆえ、藩主は手放せなかったのでしょうか。寛政九年、八十一歳でようやく任を解かれて帰国しました。改めて、その人生を貫いた大事は何か。古希を迎え、子孫へ綴られた家訓があります(上図参照)。そこには長男への手紙と同じように、人として踏み行すべき道が諄々と説かれています。酒や博奕、色事を禁じ、贅沢に走らず質素儉約を旨とせよ。寸陰を惜しんで学問をせよ……これを忠実に守らないものは我が子孫ではないと。少し息苦しく感じるかもしれませんが、赤水の根っこがここにあると私は思います。「地図の作成は余技(＝趣味)として思い立つ」と彼は言いました。では本分は何だったか。やはり儒学、学問であり、地図はその実践だったのです。

天明6(1786)年12月、赤水が自筆した家訓が残っている。
儒学の思想、赤水自身の体験に基づく深い思いが窺える

登場する地域の名前や位置関係を、
表紙や裏表紙の裏面の余白に図で
記しているのです。

訪れたこともない中国の地理を
描くなど普通は無理です。経書を
読む中で疑問を抱き、勉強を積み
重ねて得た力なのでしょう。結婚
を経て、学者としての評判が高ま
ってきた三代には『論語』や『左
氏春秋』の講義を頼まれて福島
のいわきに遠征します。そうして宝
暦元(一七五二)年、三十五歳の
頃に儒学を大成。継母の威が亡く
なったのも同じ頃でした。

学問は何のために 修めるのか

ほどなく、赤水はある問題に突
き当たります。当時、水戸城へ年
貢を納めるため苦勞して山道を進
むうちに迷い、崖から落ちて亡く
なる人、怪我をする農民が多くい
ました。また、自分が講義に出か
けた時、細い道に入り込んで危な
い目にも遭ったようです。庶民は
絵師たちが描いた大雑把な絵図に
頼るしかありませんでした。

その頃赤水の心にはある考えが
育っていました。学問は学問のた
めにするものではなく、人の役に

立つためにある——母たちの教え
が生きていたのかもしれない。

三十五歳以降、様々な形で地図
を描き、正確な作図に必要な天文
学・地理学も学び始めます。水戸
藩の修史局(光圀公が始めた『大
日本史』編纂を担う)彰考館に出
入りし、天文学者・小池友賢に師
事する他、図書係の立原蘭溪と漢
詩の会で交流を深めます。その手
引きで各藩の国絵図を借り、水戸
城下で広げては、半紙を重ねて一
枚一枚写し取っていききました。

もちろんそれらを合わせても分
からないところがたくさん出ます。
そこで頼ったのが、道行く人の情
報でした。赤水の家は、大きな街
道の脇にありました。道行く旅人
を招き入れては食事やお茶を振る
舞い、歩いてきた道の様子を聞く。
座右に貼った地図に誤りがあれば
和紙を被せて修正しました。学友
の松岡七賢人には各地を歩く山伏
が二人いたため、それらにも声を
かけて詳細な道を描いています。
気の遠くなるような作業です。
しかし聞き書きに留まらず、四十
四歳の時に東奥(東北)を旅して
松尾芭蕉の『奥の細道』に近い地
域を歩いています。また五十一歳

の時、水戸藩磯原村の船がベトナ
ムまで流され、中国船で帰ってき
た船員を長崎の出島まで迎えに行
き、中国人と漢詩で交流。漢学の
高い教養と儒学者のネットワーク
が赤水を後押しし、世界を見る目
政治への目を開いていきました。

その中で緯度の概念への理解を
深め、それを盛り込んだ『改製日
本分里図』が完成したのは着手か
ら十七年経った明和五年、五十
二歳の時でした。これは、後に版
を重ねる赤水図の原図にあたりま
す。同年、功が認められ、農民で
ありながら武士と同じ扱いを受け
る郷士格になりました。

農民から藩主の侍講へ 駆け上がった赤水

順調に進んでいたかに見えます
が、実は途中、学者生命の危機に
陥っています。東奥遊歴から帰っ
た際、水戸藩では「異学の禁」、朱
子学以外の学問を追い出す運動が
激化していました。門閥からの嫉
妬もあつたでしょう、儒学者の赤
水にも讒言が飛んできました。

下手をすれば学問を続けるどこ
ろか、首を刎ねられる時代です。
追い込まれた赤水は立原蘭溪を通

じて彰考館の権威・名越南溪に見
事な一筆を送り、難を逃れます。

「程朱の学は、物に格り理を究む
(格物致知)。治国小大遺すなし。
博文約礼(広く学問して事の理を
極めた上、礼を以てこれを締め括
り実行すること)は、実に孔孟
(孔子・孟子)の正宗なり。然りと
雖も、物必ず長短あり。苟も其長
を取れば、何の書か読むべからざ
らん」……私はあらゆる本に目を
通し、その中の真理を学び取って
いる。それが孔孟の道であり、長
所を取れば読むべきでない本があ
るだろうか。ここに私は、人間・
長久保赤水の強さを見ます。

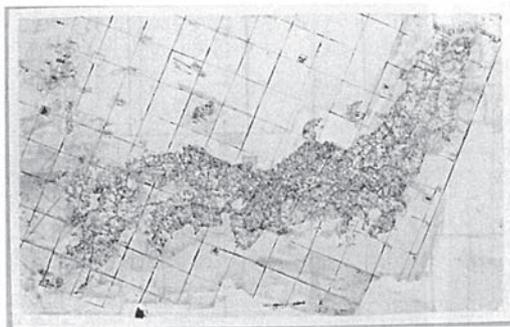
安永六(一七七七)年六十一歳
の時、水戸藩六代藩主・徳川治保
公の侍講として江戸の藩邸住まい
を命じられます。農家出身として
は異例のことでした。そうして出



江戸周辺を拡大した赤水図原図。おびただしい修正痕がある。厳密な縮尺に加え、版を重ねるほど目印となる山河の絵も充実していく

致知 2024-1

34



修理後の「重文赤水資料」お披露目展示会開催

長久保赤水顕彰会会長 佐川春久

近年、郷土の偉人というだけでなく、全国的にも江戸時代後期に活躍した現高萩市出身の地理学者、長久保赤水（1717～1801）への注目度が一段と高まってきた。2020年の国の重要文化財指定を受け、翌21年、高萩市では「赤水の生涯と功績」を主題にした映像作品を製作、

ユーチューブに公開した。あわせて、同市では重文指定の長久保赤水資料の経年劣化を修理し、「文化財を未来へと繋ぐため」、それらに係る資金調達をクラウドファンディング型ふるさと納税の形で協力を呼びかけた。その資金で資料の一部が修理を終え、今秋、10月21日から12月10日まで、高萩市歴史民俗資料館において、これら資料のお披露目展示会が開催される。

具体的には、『改正日本輿地路程全図』（赤水図）の原図といわれる『改製日本分里図』（輿地路程図草稿）や『改正日本輿地路程全図』第2版など、長久保赤水資料群の中でも最も貴重な赤水手書図が展示される。

重文指定のこれらの赤水資料には、胡粉（こふん・白色顔料）による修正痕や幾重にも和紙を重ね修正した痕跡が随所に見られ、地図製作の苦勞が見て取れる。茨城県民の皆様には勿論のこと、県内外の皆様にも、ぜひ一度、生の赤水手書き資料を見ていただきたい。

赤水生誕三百年（1717）の前年にあたる16年には、



第7回赤水ウォーク！
2023年11月11日
（土）晴
参加者 58名
歩行距離：7km
歩行時間：2時間

北海道のアマチュア天文家が発見した小惑星を国際天文学連合に申請し、「(15763) ナガクボ」の学術名が付けられている。この小惑星（直経約10km）は、火星と木星の間を約四年半かけて楕円軌道で回っている。そして、20年には、長い間、待ち望んでいた重要文化財指定が実現した。また、23年には茨城大学の野澤恵教授のご提案により『改正日本輿地路程全図』や『天象管圖鈔』などの赤水資料について、日本天文学会の「日本天文遺産」登録への申請手続きが9月末に完了した。

自然科学研究機構国立天文台の渡部潤一氏も『天象管圖鈔』に綴じ込まれている回転円盤星座盤は日本で初めての星座早見盤といっても過言ではない」と紹介されている。

これが、実現すると赤水が天文学の知識を利用して、日本地図を始め、世界地図、中国地図、中国歴史地図帳などを製作したことを裏付け、新たな赤水調査の足がかりになるものと期待している。結果は24年3月に発表される。

また、『日本天文学の中の長久保赤水』という原稿を長久保赤水顕彰会理事の川口和彦氏（すばる天文同好会代表）が執筆し、24年3月に発行する予定である。乞うご期待！

【写真説明】

『改正日本輿地路程全図』（赤水図）の原図といわれる『改製日本分里図』（輿地路程図草稿）

令和5年度 茨城県芸術祭 『第54回 吟詠剣詩舞道大会 構成吟舞 長久保赤水物語』

<https://youtube.com/watch?v=IIvZuqLFxTk&feature=shared> (1時間48秒)

11月19日（日）の午後に、東海文化センターで行われた茨城県芸術祭 第54回吟詠剣詩舞道大会での企画構成吟舞 長久保赤水物語 です。昨年、東海文化センターにおいて実施された、令和四年度茨吟連吟道大学講座で高萩市が制作した映画鑑賞の後、長久保赤水先生の業績を講演させていただきました。これが、今回の茨城県吟詠剣詩舞総連盟のステージにと繋がりました。この企画構成吟舞 長久保赤水物語 は、茨城県吟詠剣詩舞総連盟が自主制作されたものです。

メトロポリタン + プラス

長久保赤水は伊能忠敬より42年も前に日本地図「改正日本輿地路程全図」を完成させた。江戸時代、伊能図は幕府の秘図だったため、庶民はもっぱら赤水図を愛用していたという。

両図の違いは伊能図が「測量図」で、赤水図は「編集図」であること。赤水自身が集めた地名や河川や山など

「日本地図の先駆者 長久保赤水の足跡」と題して講演する佐川春久さん=9月1日、東京都品川区で



本紙連載「日本図の変遷」赤水から伊能へ」（2022年10月〜23年3月）で紹介した江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717〜1801年）への注目度が増している。21日からは出身地、茨城県高萩市で資料展示会が開かれる。（小幡勇弘）



日本地図の先駆者 長久保赤水 高萩で資料展

も盛り込み、内陸部の情報も豊富だ。ただ、伊能図に描かれた蝦夷地（現在の北海道）が別図（蝦夷之図）のため、教育現場では伊能図が主流になっていたようだ。2020年、赤水関連資料693点が国の重要文化財（重文）に指定された。これをきっかけに赤水図が中学校の教科書に掲載され、高萩市では地図のレプリカが教材として使われるようになった。

「重文指定資料すべてに目を通した」という長久保赤水顕彰会会長の佐川春久さん（74）は今夏、東京都内で初めて品川区主催の講演会で講師を務めた。赤水の生い立ち、赤水図完成までを紹介。参加者は「初めて赤水の名前を知った」人が多く、「伊能忠敬以前に地図を作った人がいたことが驚き」などの感想が寄せられた。佐川さんは「まだまだ知名度が低い現実を痛感させられた」という。

佐川さんは「高萩市が製作した和泉元彌さん（狂言師でタレント）主演映画『その先を往け！ 日本地図の先駆者 長久保赤水』（QRコード）をぜひ見てほしい」と話す。修復された重文資料を含む展示会は、高萩市歴史民俗資料館で12月10日まで。

「重文指定資料すべてに目を通した」という長久保赤水顕彰会会長の佐川春久さん（74）は今夏、東京都内で初めて品川区主催の講演会で講師を務めた。赤水の生い立ち、赤水図完成までを紹介。参加者は「初めて赤水の名前を知った」人が多く、「伊能忠敬以前に地図を作った人がいたことが驚き」などの感想が寄せられた。佐川さんは「まだまだ知名度が低い現実を痛感させられた」という。

佐川さんは「高萩市が製作した和泉元彌さん（狂言師でタレント）主演映画『その先を往け！ 日本地図の先駆者 長久保赤水』（QRコード）をぜひ見てほしい」と話す。修復された重文資料を含む展示会は、高萩市歴史民俗資料館で12月10日まで。



R5. 10月16日 茨城新聞

茨城新聞友の会iくらぶは、長久保赤水顕彰会提供の「改正日本輿地路程全図」II写真IIを抽選で会員7人に贈る。

江戸時代に活躍した現高萩市出身の地理学者、長久保赤水は1779年に、初めて経緯線の書かれた日本地図「改正日本輿地路程全図」（赤水図）初版を完成させた。同会は国指定重要文化財の第二版赤水図を基にレプリカを作成した。

会員宛てに送るメールマ

赤水の日本地図
レプリカ7人に
10月プレゼント
茨城新聞友の会iくらぶ

ガジンの応募要項を確認の上、メールで応募する。インターネットを使える環境にない会員は、はがきやファクスで氏名と「iくらぶ10月プレゼント応募（長久保赤水地図）」を明記の上、茨城新聞友の会iくらぶ事務局へ送る。応募締め切りは24日。当選は発送をもって発表に代える。

プレゼント応募には会員登録が必要。入会希望者は茨城新聞社ホームページの入会申し込み欄から登録するか、本社、支社・支局、みと・まち・情報館にある入会申込書に記入して事務局へ送る。事務局は〒310-0868 水戸市笠原町978の25 茨城県開発公社ビル茨城新聞社総務局読者室。問い合わせは同室 ☎029(2339)3002、ファクスは029(301)0690。



「赤水」の注目度向上

寄稿

長久保赤水顕彰会長

佐川 春久

度からは中学・高校の教科書にも赤水の功績や日本地図が掲載され、授業を行う学校の先生方や県外から顕彰会への問い合わせも増えた。

県十日町などからも出前講師の依頼があった。赤水は伊能忠敬より42年も早く精密な日本地図を作った。2人が作った地図とその影響について、在京紙が昨年10月から今年3月まで23回にわたり連載した。歴史上の人物を紹介するム

のユーチューブに公開。インターネット上で検索できる情報も格段に増えた。関係資料を所蔵する同市歴史民俗資料館の来館者は、県外が約1割を占めるまでに増加した。同市の友好都市、山形県新庄市や埼玉県飯能市の小中学生も元

ただいている。来年の市制施行70周年を契機に長久保赤水を研究する専門家による学術的なシンポジウムを開催するのはどうだろうか。高萩から全国へ情報発信することで、地元への波及効果も期待できる。

江戸時代に活躍した現高萩市出身の地理学者、長久保赤水（1717～1801年）への注目度が一段と高まっている。2019年に都内で開催した内閣官房との共催事業「いったい何者？江戸の地図男！長久保赤水展」が県外での情報発信の始まりとなり、翌20年の赤水資料の国の重要文化財指定につながった。21年

中学・高校の教科書に掲載

昨年4月には日本地図学会に長久保赤水図専門部会が発足。都内で学会例会が開催され、歴史地理学会でも赤水の研究論文が発表された。「赤水図」を活用した地理教育では、県内の中学・高校にとどまらず新潟

ツク本「面白すぎる人物日本史近世・近現代編」（中央公論新社）や雑誌「週刊文春」「サライ」などでも取り上げられた。高萩市は21年、赤水の生涯と功績を主題にした映像作品(53分)を制作し、動画投稿サイト

松岡藩の藩校「就将館」を訪れ、赤水をはじめ高萩ゆかりの偉人など歴史を学んでいく。高萩市は赤水資料の修復事業にも着手。現在、市歴史民俗資料館に「長久保赤水記念館」の併設も検討い

今夏は、東京都品川区が主催する講演会の講師を務める機会を得た。高評価をいただいたが、赤水の名や功績を知る人はまだまだ少ないとも実感した。「赤水について知りたい」との要望があれば、可能な限りどこへでもとんで行きたいと思う。興味のある方は、ぜひ連絡をいただきたい。

ゆかりの地で“赤水”を偲ぶ



▶松月亭跡地を見学

目。今回は日立市や北茨城市からの参加者もあり、募集人数を上回る40名が参加した。

集合場所は南中郷駅より徒歩約7分の北茨城特別支援学校体育館。主催者から日程などの説明を聞いたあと、隣接する赤水ゆかりの場所を通り数百メートル先の墓所へ向かう。西向きに建つ墓石、碑文は6代水戸藩主の弟で宍戸藩主松平頼救の撰文との書で、赤水が亡くなる2年前の数え83歳の時に書いてもらったものという。お参りを済ませゆかりの場所に戻り、松月亭跡地を見学。松月亭（赤水が名付けた）は赤水の隠居所だったところで、子孫の長久保孝徳さんが建物の内容や歴史などを説

現在の高萩市赤浜の農家に生まれた日本地図の先駆者、長久保赤水（1717年12月8日生・1801年8月31日没）をゆかりの地で偲ぶ「赤水忌」が8月末に行われた。（主催・長久保赤水顕彰会、すばる天文同好会）

「赤水忌」は昨年につき2回

明してくれた。近くには赤水の生誕250年を記念して設置された松月亭碑がある。石碑には水戸藩第九代藩主斉昭（烈公）が旧跡松月亭をたずねたときに赤水の業績を偲んで詠んだ和歌が刻まれている。

体育館に戻り、館内に設置されたプラネタリウムでは夜空の星が地図作りにもどるよう利用されたかなど説明を聞き、野外では望遠鏡や双眼鏡で月を観察した（説明等天文同好会）。長久保赤水顕彰会とすばる天文同好会のコラボ企画。「二人でも多くの人に赤水の名前と功績を知らせるいい機会になれば」と顕彰会事務局の三浦さん。

博学な赤水の一端を学んだ「赤水忌」だった。

▶墓所でお参り



赤水忌





撮影地 御殿場線下土狩駅前
 (コミュニティセンター)
 長泉町文化祭にて (令和5年10月27日)
 撮影者 長久保赤水顕彰会会員
 星屋一浩

長久保赤水が最初に 日本地図を完成させた!?

伊能忠敬の地図より42年前に地図を完成させたのは長泉町下長窪にルーツがある「長久保赤水」。
 令和2年には、日本最初の地図の作成を認められ、長久保赤水の地図が『国指定重要文化財』に認定されました。長久保さんのことを多くの人に知ってほしいという思いから、星屋一浩さん(下長窪)が「駿河国 長久保城物語」を編集されました。



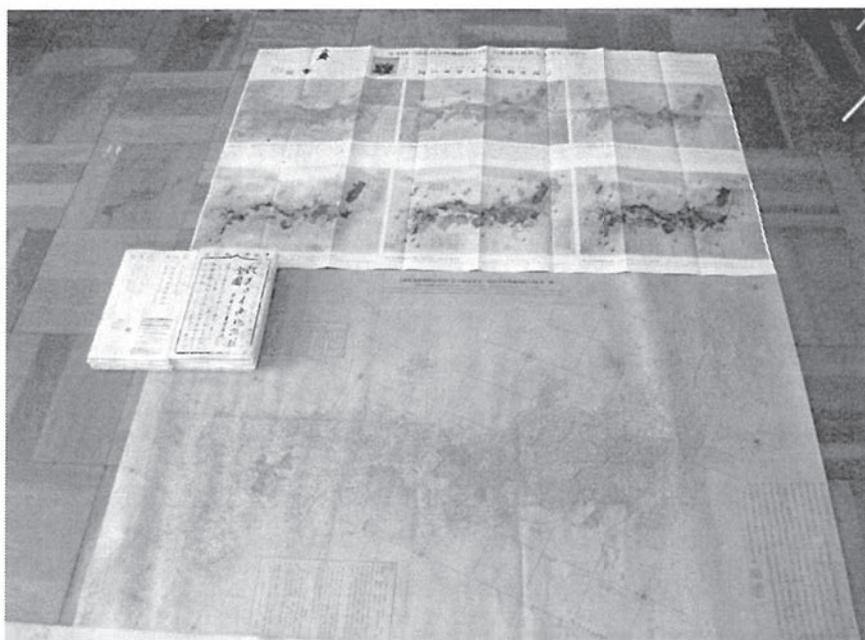
静岡県駿東郡長泉町 北小学校付近

2023.11.1号 広報ながいずみ

重要文化財の「赤水図のレプリカ」誕生

高萩市が所蔵する重要文化財の「赤水図（正式名称：改正日本輿地路程全図）」は、現代の地図と思わせる地図で、江戸時代のベストセラーマップとなつて、海外にも多く持ち出され、ペリーも持参した日本地図の初刷りの地図です。この度重要文化財の赤水図を元に原寸大のレプリカ（日本地図）を長久保赤水顕彰会が作成しました。表には第二版の初刷りの「赤水図」を印刷し、裏面には赤水図の変遷が辿れるように原図と、第一版から第五版までの「赤水図」を掲載し、その版毎の解説も記載したものです。

第二版の内容は、その後の第三版から第五版に引き継がれ、海賊版まで出版された江戸時代の高精度の実用地図で、その価値が認められ社会科の教科書にも掲載されています。この第二版は、第一版を大幅に改訂し地名も第一版の約四千二百から約六千に増やし、航路も追加され商業活動や旅行の必需品となったものです。経緯線は第一版から記載されて居ますが地球回転に伴う経度方向の時間差も記載し、当時の科学的事実を総動員して長久保赤水一人で製作した日本地図です。レプリカの価格は千百円です。



赤水図レプリカ

注文・お問い合わせは、長久保赤水顕彰会のホームページの「お問い合わせホーム」にお届け先住所、氏名、電話番号、数量などを記載の上、ご注文下さい。
ホームページは、<https://nagakubosekisu.org/>

赤水の功績 思いはせ

長久保孝徳さんから松月亭の説
明を受ける参加者 高萩市赤浜



高萩 顕彰会、ゆかりの地巡る
高萩市出身で江戸時代の
地理学者、長久保赤水(1717~1801年)をし
のぶ「赤水忌」が26日、赤

水の命日(8月31日)を前
に同市赤浜の赤水墓所や隠
居所跡などで行われた。長
久保赤水顕彰会の会員ら40
人が、赤水の功績に思いを
はせながら、ゆかりの地を
巡った。

参加者は、同所に墓参し、
手を合わせて赤水の偉業を
たたえた。その後、隠居所
だった「松月亭」跡地に移
動。同会理事で赤水の子孫
でもある長久保孝徳さん
(64)が、建物の由来や歴史、
生誕250年を記念して設
置された石碑を紹介した。
孝徳さんによると、名称
の由来は、赤水が書いた漢
文「松樹万年蒼し、月光千
里白し」で、本人が名付け
たという。また、赤水が侍
講を務め関係が深かった水
戸藩6代藩主・徳川治保、
7代藩主・治紀、没後に赤

水の名声を聞きつけた9代
藩主・斉昭も松月亭を訪れ
たとのエピソードを披露。
斉昭が訪問時に、子孫に渡
した扇子に刻まれた和歌が
石碑に書かれていると解説
した。

その後、北茨城市中郷町
小野矢指の県立北茨城特別
支援学校に移動。松月亭の
名称、天文学者でもあり、
星図を作成していたことに
ちなみ、望遠鏡を使った月
や星の観察会も行われた。
市内から参加した和田勝
子さん(85)は「赤水は高萩
の宝物。改めて、すごい人
だと感じた」と感想。同会
事務局長の三浦邦明さん
(71)は「赤水もこの夜空を
眺めていたと思いをほせな
がら月を見た。きれいだった」と笑顔を見せた。
(高田尚輝)

吐玉泉

▲現在の高萩市出身の学者で、
日本で初めて経緯線のある全国
地図を完成させた長久保赤水
(1717~1801年)につ
いて学ぶ連続講座(全3回)の
第1回がきのう、水戸市南町の茨城新聞み
と・まち・情報館で開かれた。長久保赤水
顕彰会の佐川春久会長が、本や地図を見な
がら赤水の功績を解説し、受講者22人が熱
心に耳を傾けた。写真。

▲赤水は伊能忠敬より42年早い1779年
に、初めて経緯線の書かれた日本地図「改
正日本輿地路程全図」(赤水図)を完成さ
せた。赤水図は江戸時代、多くの人たちに
広く親しまれたという。

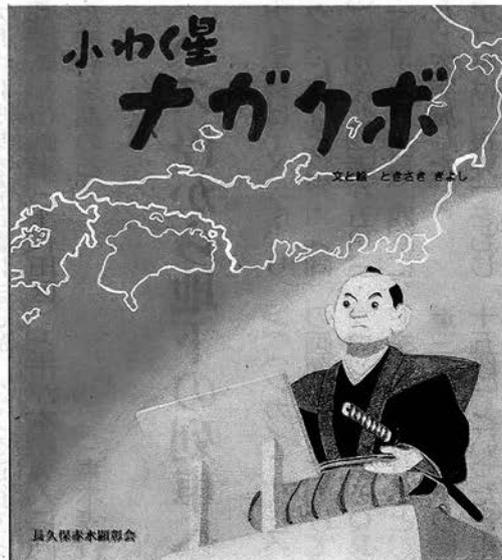


▲佐川会長は赤水の生い立ちを紹介した
後、用意された縦6尺40寸、横4尺20寸の
巨大な赤水図
を示して、現
在の日本地図
との違いを解
説した。佐川
会長は「赤水
は水戸藩の誇
り。一人でも
多くの人に関
心を持っても
らいたい」と
期待した。

メトロポリタン **+** プラス

功績紹介の絵本発行

本紙「生きる」で連載した「日本図の変遷〜赤水から伊能へ〜」の主役の1人で、江戸時代の地理学者長久保赤水（1717〜1801年）。伊能忠敬の実測地図より42年も前に編集日本図「改正日本輿地路程全図」を製作、多くの人の目に触れた。赤水図がいかにかに工夫され、人々の役に立ったかを紹介する絵本「小わく星 ナガクボ」（文と絵・ときさきよし）＝写真＝が発行された。赤水と同じ茨城県高萩市生まれのときさきよしさんは、赤水の地図作りへの思いを「子どもたちに伝えたい」としている。



★赤水の地図★輝き知って

北極星の高度がその土地の緯度を表すなど地図作りに天文学は欠かせない。赤水は58歳のときの著書「天象管開鈔」の中に、日本初の回転式星座早見盤をどじ込んだ。

太陽系の火星と木星の間には60万個以上の小惑星がちりばめられている。

「ナガクボ」は1992年、北海道のアマチュア天文家2人によって発見され、1万5763番目の小惑星として登録。2016年4月22日、赤水の業績をたたえ「15763」Nagakubo」という名称に。この年は赤水生誕300年の前年にあたる。

「ナガクボ」は直径約10キロ。探査機「はやぶさ」で知られた「イトカワ」は約540キロ、「はやぶさ2」が石や砂を持ち帰った「リュウグウ」は約900キロなので、比べるとかなり大きい。太陽の周りを約4年半かけて1周している。

絵本は1100円。購入は佐川春久・長久保赤水顕彰会会長☎090・1846・6849、または同会ホームページ（nagakubosekisu.org）お問い合わせ欄まで（送料・振込手数料は同会負担）。

（小幡勇弘）



「赤水図」を使った秋山中学校での授業のようす

「赤水図」読図地理教育に利用…学習指導要領に沿った社会科授業が実施されました

（松岡中学校7月11日、秋山中学校8月1日、高萩中学校8月2日）昨年、日本大学の卜部勝彦教授が高萩へ来て実施された「赤水図」を利用した地図の読図出前授業は、今年度は学習指導要領に沿った各校の単独授業にリニューアルされました。これにより、各校の社会科の先生方が視覚を利用して、生徒が「赤水図」の中に目的地を探し出すなどの読図授業を、それぞれ工夫して行われました。なお、「赤水図」レプリカが高萩市から1年生の生徒一人一人にプレゼントされました。



地図読み取る力養う 日立北高で公開授業



赤水図と現代の地図を比較する生徒＝日立市川尻町

正確な地図情報を得る知識や技能を身に付けてもらうと、県立日立北高校(日立市川尻町、内桶二郎校長)で5月29日、身の回りの地図や古地図を比較して、生徒同士が意見を交わし、地

図への理解を深める公開授業が行われた。

同授業は「地理総合」の一環。1年生の2クラス計69人が授業に臨んだ。生徒は3〜4人のグループに分かれ、高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水(1717〜1801年)が完成させた赤水図と、現代の地図を比較し、現在の県庁所在地の位置や湖など地形の変化を確認。それぞれの地図の特徴を理解し地図情報を得る思考力を養った。原寸大の赤水図のレプリカを資料として提供した長久保赤水顕彰会の佐川春久

会長は「ハザードマップなど地図を読む力は必要になる。赤水図がそのきっかけになれば」と話した。授業を受けた大屋海翔さん(15)は「目的や使用する人によって知りたい内容が描かれている地図がたくさんあることが分かった」と感想を述べた。(高田尚輝)

みとまろ 情報館 便り

現在の高萩市出身で、日本地図を作成した江戸時代の学者、長久保赤水(1717〜1801年)の生涯と功績を学ぶ連続講座(全3回)が、15日から水戸市南町2丁目の茨城新聞みとまろ・情報館で開かれる。

長久保赤水顕彰会の佐川春久会長が、①赤水の生涯と功績②国重要文化財に指定された赤水の関係資料③天文学分野の業績、赤水が作った日本地図が海外に与えた影響―について講話する。

長久保赤水は、伊能忠敬よりも42年早い1779年に詳細な

赤水の功績学ぶ連続講座

15日から全3回 顕彰会が講話、参加募る

日本地図を完成させたほか、儒学、天文学、農政学などにも精通。農民出身ながら水戸藩6代藩主、徳川治保に学問を教える侍講に登用された。

第1回は今年15日、第2回は9月14日、第3回は11月9日で、いずれも午前10時半から正午。各回講座は同顕彰会出版の本を教材として使い、本は参加者にプレゼントする。初回の本は「江戸時代後期の巨星 長久保赤水」、第2回は「長久保赤水資料群」、第3回は絵本「小わく星 ナガクボ」。

定員は各回とも25人(申し込み先着順)。参加費無料。申し込み、問い合わせは同情報館 ☎029(306)9500(平日午前10時〜午後5時)。

web版ムーの歴史・都市伝説 2023年5月18日掲載 『フリーメイソンが世界に広めた脅威の日本地図と地理学者・長久保赤水の謎』 (文:皆神龍太郎)

伊能忠敬が完成させた「大日本沿海輿地(よち)全図」より数十年も前に正確な日本地図を作製した人物がいた。その地図はおよそ1世紀もの間、日本中で使われ、海外にも広まっていたという。しかも、そのきっかけを作ったのが、日本に初めてやってきたフリーメイソンだったのだ。

<https://webmu.jp/history/18065/>

いばらき春秋

2023.5.3

江戸時代に活躍した現・高萩市出身の学者・長久保赤水(1717~1801年)を存じだろ

年も早く、同じくらい精密な地図を作った人物である▼忠敬は実測により日本地図を作った。

一方、赤水は全国の学者たちと交わした手紙や街道を往来する旅人たちの話など膨大な資料を基に1779年、「改正日本輿地路程全図(赤水図)」を完成させた▼忠敬の地図は幕府により機密扱いとされたが、赤水図は明治初期まで約100年間改版を重ね、幅広く利用された。忠敬も測量に携帯し、かの吉田松陰も愛用、ドイツ人医師、シーボルトは海外への紹介に「役買った」▼2020年9月、赤水関連資料が国の重要文化財に指定された。高萩市を拠点に30年来活動する長久保赤水顕彰会は「悲願がかなった」と喜んだ。が、コロナ禍と重なった▼講演会や催しは中止。それでも佐川春久会長は「本を作ったり、動画を撮ったり、なんでもできることはいっぱいあった」と振り返る▼赤水の業績から歴史、儒学、地理学、天文学と話題が広がり、あっという間に1時間超…。話を聞いてみたい方は土日祝日に高萩市立松岡小の郷土資料室「松岡藩校就将館」に立ち寄ってほしい。佐川会長が詰めている。(細)

赤水の業績、絵本で紹介

顕彰会発行 地図作成や天文学

高萩市出身で、江戸時代の儒学者・地理学者、長久保赤水(1717~1801年)の業績を子どもたちに伝えようと、長久保赤水顕彰会が絵本「小わく星ナガクボ」を発行した。経緯線のある日本地図「改正日本輿地路程全図(赤水図)」を作成したことや天文学の業績を紹介。同顕彰会では、地元の小中高校や県内の図書館などに絵本を寄贈し、広く読んでもらいたい考えだ。

同顕彰会による絵本の発行は2冊目。同会員の時崎翠さん(77)＝同市＝が絵と文を担当した。2021年から今年にかけて制作し、3月に発行した。絵本では、1779年に



小中高校や図書館などに発送した、長久保赤水顕彰会の絵本「小わく星ナガクボ」と著者の時崎翠さん＝高萩市下手綱

とした。

天文学者としてもスポットを当て、赤水が58歳の時の天文曆学に関する著書「天象管闡鈔」に閉じ込められた「回転円盤星座盤」についても記載。巻末コメントの中で、国立天文台の渡部潤一氏が「日本で初めての星座早見盤といっても過言でない」とも述べている。

絵本の最後には、2017年の赤水生誕300年に当たり、前年に業績をたたえて小惑星の一つに「ナガクボ」と名付けたことを紹介した。

時崎さんは「赤水が相当勉強して地図を作った苦労が、絵本を通じて子どもたちに伝われば、赤水図に関心を持ってもらい、さらに親しんでほしい」と話した。同顕彰会の佐川春久会長

(73)は「たくさん子どもたちにぜひ見てほしい。赤水の天文学の業績についても知ってもらいたい」と期待を込めた。

絵本は4千部発行。地元の小中高校や県内の図書館、博物館などを含む全国に約2300部を寄贈した。1冊1100円で、教科書を扱う県内の書店や、同顕彰会が郵送で販売する。同顕彰会への問い合わせは佐川会長0990(1846)6849。

(磯前有花)



長久保赤水資料群

寄稿

佐川 春久

赤水

- 1. 長久保赤水（1717～1801年）の人物像紹介。
- 2. 「赤水図」の原稿を読み解く

- 3. 「唐土歴代州郡沿革地図」中の地図2点の草稿ほか、自筆の地図メモ5点や「朝鮮輿地之図」自筆写図も併せ、カラー図版で紹介。
- 4. マテオ・リッチの6枚図を長久保赤水が1枚図にまとめた世界地図を読む
- 5. 「日本初の回転式星座早見盤」、紅毛眼鏡ニテ見ル日月図、「礼記王制地理図説」「農民疾苦」草稿などをカラー図版で紹介。
- 6. 資料編

その他の赤水の著作で「芻蕘談」「東輿紀行」「長崎行役日記」「清槎唱和集」写本「安南国漂流物語」写本と漂流図なども図版入りで紹介されている。

地図や記録、典籍紹介

「長久保赤水資料群」は、国の重要文化財に指定された赤水関係資料693点の主な資料の紹介である。その内訳は地図・絵画類84点、文書・記録類279点、典籍類274点、書画・器物類56点からなる6部構成。A4判84ページ。

- 1. いったい何者？江戸時代の地図男！ 長久保赤水が製作した編集日本図「改正日本輿地路程全図」の基となった自身の手書き地図9点などをカラー図版で紹介。
- 2. 中国地図の手書き原稿を読む
- 3. 赤水の中国歴史地図帳

- 4. これは大判の地球万国山海輿地全図説（外題は改正地球万国全図）のことで、写図などを紹介。
- 5. その他の遺墨などを読む

- 6. 赤水肖像画、「大日本史地理志」草稿、「天象管闕」などの書き下し文と大意
- 7. 「大清広輿図」とその序文
- 8. 文化財である赤水没後刷りの「改正日本輿地路程全図」3・4・5版の図版と序・凡例・考証の解説、「唐土歴代州郡沿革地図」の序文の書き下し文と大意、大判の書き下し文と大意

カラー図版は58点あり、日本地図学会にも長久保赤水図専門部会が発足し、古地図研究分野としても赤水に脚光が当てられている。より多くの茨城県民の皆さま方のご高覧を期待する。問い合わせは佐川春久 ☎090(1846)6849、または長久保赤水顕彰会のホームページ nposokisui.org をお問い合わせ欄まで。（長久保赤水顕彰会長）

講演・講座

【水戸市】
◆放送大学ライブラリー
講演会「日本図の夜明け―
長久保赤水と伊能忠敬―」
15日午後2〜4時、三の丸の県立図書館視聴覚ホール。講師は放送大茨城学習センター所長の小野寺淳特任教授。18世紀後半から19世紀前半にかけて現れた2人の優れた地図製作者とその日本図を解説。無料。事前申し込み不要、先着160人。

小学館が発行する「サライ」二〇二三年五月号の序論「地図大国ニッポン」はこうして作られたの記事の中で、長久保赤水の『改正日本輿地路程全図』（通称・「赤水図」）が掲載されました。
R. 5. 4. 10

江戸時代後期の巨星

寄稿

佐川 春久

高萩市出身の江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717〜1801年）の顕彰活動が続けてきた長久保赤水顕彰会は、昨年11月6日（赤水先生の誕生日）に創立30周年を迎えた。これを記念して同日、「江戸時代後期の巨星 長久保赤水」と「長久保赤水資料群」の2冊の書籍を茨城新聞社

にお願ひして制作、発行した。これらの書籍は、県内各市町村の図書館や全国の各施設などに寄贈した。2020（令和2）年9月30日に、永年の悲願であった長久保赤水関係資料693点が、国の重要文化財に指定された。現在、その一部は高萩市歴史民俗資料館（月曜休館）に展示されている。ぜひ、皆さま方にもご覧いただきたい。

赤水資料693点が重文

しかしながら、高萩市民や茨城県民の長久保赤水への認知度は依然として低いままである。その現況を打破しようと、今年91歳を迎えられた長久保赤水顕彰会顧問の長久保片雲（源藏）先生が筆を執った。「江戸時代後期の巨星 長久保赤水」の巻頭のごあいさつ文を書いた大部勝規高萩市長が、この本の帯でも「歴史を未来に語り継ぐ」ということは非常に重要です！ 私も連載形式の内容を一気に読み終えてしまいたい。郷土から侍講へ。水戸

長久保赤水顕彰会・制作動画のご案内 QRコードにスマホをかざして YouTubeへ



絵本動画「りゅうのひかり」
赤水図に記された福島県四倉沖の不思議な事象「阿伽井嶽龍燈（あがいだけりゅうとう）」を描いた絵本に朗読を加え動画化。
<https://youtu.be/DxPDI6fW4B4> (公開)2020.12.6



6分33秒

寄稿

長久保赤水顕彰会長

佐川 春久

高萩市出身の江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717～1801年）の「赤水図」を活用した授業に、ゲストティーチャーとして呼ばれ参加した。

1月20日に行われた県立八千代高等学校（根本雄一校長）の「地理B」の授業では、高校卒業前の地理学習のまとめに、郷土の地理学者が挑んだ偉業の成果である「改正日本輿地路程全図」（赤水図）を使って、読図力を育むことを目的に新たな手法で行われた。

最初に、高柳元教諭から「赤水図」と現代の地図帳

を使って比較読図の授業が行われた。秋田県の八郎瀧は「赤水図」ではどのような描かれているか。日本三大河川の利根川は「赤水図」において、何と表記されているかなど10の課題に合わせ学習を進めていった。現在は、埋め立てられてしまった八郎瀧には、広い湖面が描かれていた。また、

鳴門の渦潮はぐるぐる。と円が描かれ、那智の滝は実際に滝が落ちているように描かれていることなどを伝えた。また「赤水図」以前の地図は、お殿様が領地や耕地などの分布を把握し、戦や税を徴収するために用いたが、赤水が天文学の知識を取り入れ、日本初の経緯線

が記載されている。このため街道を旅する人だけでなく、物流・経済活動にも使われていた特色を紹介した。さらに現在の神奈川県浦賀沖にペリー艦隊が来航時（1853年）も、江戸の庶民や幕末の志士たちが見ていたのは「赤水図」である。伊能忠敬の「伊能図」

高校授業で「赤水図」活用

は江戸幕府の秘密の地図であったため、明治初年ごろ

利根川は坂東太良川と表記されていたことなどを楽しみながら学んだ。

入り日本地図を製作・発行したことで、大衆化した。携行用地図を工夫し、24分の1に折り畳み、利便性を高めている。詳細な地理情報により、旅や道案内、場所の確認など観光活用だけでなく、活火山や河川・沿岸の防災情報も併せ持つ。特に河川が非常に詳しく書かれ、港から港までの距離

にやっと「伊能図」が一般公開されたことなどもお話しした。

最後に、私からは黒板に掲示した2倍に拡大した「赤水図」の第2版、1791（寛政3）年を示しながら、注目してほしい事例をあげた。当時、噴火していた浅間山や阿蘇山などには噴煙の様子が描かれてい

る。最後に、私からは黒板に掲示した2倍に拡大した「赤水図」の第2版、1791（寛政3）年を示しながら、注目してほしい事例をあげた。当時、噴火していた浅間山や阿蘇山などには噴煙の様子が描かれてい

る。最後に、私からは黒板に掲示した2倍に拡大した「赤水図」の第2版、1791（寛政3）年を示しながら、注目してほしい事例をあげた。当時、噴火していた浅間山や阿蘇山などには噴煙の様子が描かれてい

長久保赤水顕彰会・制作動画のご案内 QRコードにスマホをかざして YouTubeへ

～地図は何を語る～
長久保赤水が可視化した日本



【産学官】日本地図学会 & 長久保赤水顕彰会主催
地図は何を語る～長久保赤水が可視化した日本

後半、高萩市の風光明媚な風景もお楽しみいただけます。
<https://youtu.be/-wcSBTzBRz4> (公開)2020.12.10

19分17秒



都内で赤水図公開

高萩市出身の江戸時代の地理学者、長久保赤水(1717~1801年)が作製した日本地図(赤水図)の実物が19日、都内で公開される。東京都千代田区の日本大経済学部で開かれる日本地図学会の例会で、個人所有の

あす・日本地図学会

赤水図が披露される。一般参加が可能で、実物を間近で見られる貴重な機会になる。赤水は1779年、日本地図「改正日本輿地路程全図」の初版を完成させた。天文学の知識を取り入れ、初めて経緯線をとる。第2部では、日本大

記載した日本地図を発行した。長久保赤水顕彰会によると、同学会は昨年4月に「長久保赤水図専門部会」を設置。今回は、同部会が主管する初めての例会という。例会の第1部では、赤水図の公開のほか、同顕彰会の佐川春久会長が関連資料群の概要を説明する。第2部では、日本大

の卜部勝彦教授らが高萩市内の中学校で実践した赤水図の地理教育利用について、成果を報告する。会場は同大経済学部3号館7階3071教室。第1部は午前9時から。参加費500円(学生会員は無料)。第2部は同10時半から。参加無料。詳細は日本地図学会公式ブログに掲載されている。(磯前有花)

改正日本輿地路程全図(赤水図) —改訂の経緯を中心に—

海田 俊一

Imago Mundi's National Representative for Japan
[Image of the world] The International Journal for the History of Cartography
A Member of International Map Collectors' Society
国際古地図研究会



長久保赤水
1717-1801



改正日本輿地路程全図(赤水図)第2版、寛政3(1791) 初訂state 神戸市立博物館・南波コレクション

日本図の主要な系譜

公儀

江戸幕府撰の編集図
慶長c1600・正保c1645・元禄1690s・天保c1840 手稿

江戸幕府の実測図
伊能図 大日本沿海輿地全図 文政4(1821)完成 手稿



官板実測日本地図 慶応3(1867) 刊本

民間

想像的絵図
流宣図 本編図幅編目1687~
日本海山潮陸図1689~1778... 刊本

編集図
赤水図 1779/80~ 刊本



流宣図 日本海山潮陸図
初版2訂 元禄4(1690) 秘蔵

赤水図 改正日本輿地路程全図
初版初訂 安永8(1779) 神戸市立博物館



◆日本地図学会第215回例会
19日9時~11時30分。千代田区西神田1の日本大学経済学部3号館7階3071教室。水戸藩の

地理学者・長久保赤水が製作した日本地図(赤水図)の実物の公開、関連資料群の概要説明ほか。詳細は日本地図学会公式ブログ参照。参加費500円(学生会員は無料)。

赤水図活用し地理学ぶ

八千代高 顕彰会長が業績紹介

県立八千代高（八千代町平塚、根本雄一校長）の3年生28人は20日、高萩市出身で江戸時代の学者、長久保赤水（1717～180



長久保赤水の業績を紹介する
佐川春久会長＝八千代町平塚

1年）が作成した「改正日本輿地路程全図」（赤水図）を使った授業に臨んだ。長久保赤水顕彰会の佐川春久会長（73）も登壇し、赤水

の業績を紹介した。

赤水図は1779年に初版が完成し、翌80年に発行された。この地図は江戸時代の庶民の間で広まり、長年使われたという。

地理Bの授業で生徒らは少人数のグループに分かれ、赤水図と現代の地図帳を比較。富士山や渡良瀬遊水地の位置のほか、利根川は「坂東大良川」と表記されていた相違点を学んだ。

授業の後半は佐川会長が登壇。赤水図の功績として「地図を庶民のものにした。物流など経済活動に使われた」と指摘。2020年9月に赤水の関連資料693点が国の重要文化財に指定

されたと紹介した。

蘭部愛美さん（17）は普段はスマホの検索サイトで調べているといい、「地図を見る機会はない。短時間でもしっかり見ることができて良かった」と振り返った。今回授業を行った高柳元教諭が顕彰会員という縁で、佐川会長を招き実現した。

（小林久隆）



後日、県立八千代高校での赤水図3倍タペストリーを使った授業の様子



伊能より42年早く
 赤水は現在の同市赤浜の農家に生まれ、儒学や天文学、地理学などを学んだ。「余技(趣味)だとして描いた地図は、40歳(それから20年以上の歳月をかけて作成。1779年には「改正日本輿地路程全図」(赤水図)の初版を完成させた。

現在の高秋市出身で、日本地図を作成した江戸時代の学者、長久保赤水(1717-1801年)の顕彰活動や地図を教育に生かす動きが活発化している。功績を伝え続けてきた長久保赤水顕彰会同市は設立から30年。この間には関係資料が国の重要文化財に指定され、地図が教科書に掲載されるなど赤水への注目度が増す。さらなる知名度向上に向け、活動が熱を帯びる。(日立支社・小原瑛平)

赤水顕彰が活発化

教科書に地図



郷土の宝、全国に発信

天文学を生かし、日本の地図としては初めて経緯線を記載。地図の完成は伊能忠敬より42年早い。赤水図は江戸時代の庶民に広く使われたとみられてい

会員100人を目指す

こうした功績を広く伝えようと、同会は1992年

11月6日、赤水の誕生日に会員121人でスタートした。会によると、それまで赤水を顕彰する機運が一時に高まって長くは続かなかったという。石平光副会長(88)は「私の子どもの頃は赤水について教わったことがなかった」と話す。講演や展覧会、書籍発行といった顕彰活動を展開。赤水の子孫らが保管していた資料の収集なども進めてきた。2012年から会長を務める佐川春久さん(73)はさらに加速させ、一時は88人まで減っていた会員も813人にまで増えた。現在は千人を目指して奮闘中だ。

「赤水に魅了される点について、顕彰会事務局長の三浦邦明さん(70)は「儒学者でありながら科学的な才能も持っていた」、事務局の佐藤信さん(70)は「情報収

集のプロであり、現代にも通じる学びがある」と、赤水の魅力についてそれぞれ語る。

小中高で活用可能
 17年に関係資料が真指定文化財に加わったのに続き、20年には関係者の悲願だった国の重要文化財に指定された。その後、中学、高校の教科書や参考書に赤水図が掲載されるなど、知名度は徐々に高まっている。

今年4月には、地図の研究者らで構成する「日本地図学会」内に赤水の専門部会が設置された。研究の深化に期待が高まるとともに、部会の代表を務める日大経済学部の上野勝彦教授は、赤水図が学校の地理教育に活用されるよう普及を進める方針だ。

上部教授は今夏、高秋市内3中学校で出張授業を実施。生徒は赤水図を見ながら、現代の都府県庁所在地に当たる場所を山や川などの位置をヒントに探し

た。

11月下旬、市内で授業の報告会を開いた上部教授は「この学習は地理にも歴史にも使えて、小中高それぞれの場面での使い方があり、全国各地の学校でも普及できないかと考えている」と力を込め、赤水図を

「全国に発信できる大きな宝」と評した。佐川会長は「地図のレプリカが教材として使われるようになり、赤水のことが全国に知られれば、高秋市の町おこしにもつながる」と顕彰の広がりを見守る。

県立八千代高校の図書室に設置された赤水コーナー

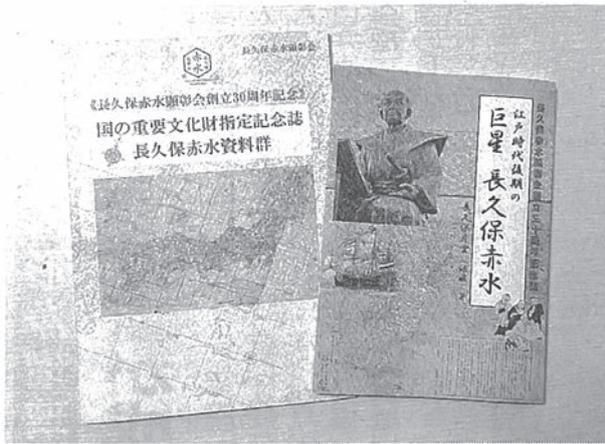


赤水の人物像、業績解説

顕彰会30周年 記念誌2冊を発行

現在の高萩市出身で江戸時代の学者、長久保赤水(1717~1801年)の功績を伝える長久保赤水顕彰会は、同会創立30年の記念誌2冊を発行した。赤水の人物像のほか、日本で初めて経緯線のある全国地図を完成させるなどの偉業を成

し遂げた情熱や、国の重要文化財に指定された資料群を紹介している。記念誌のうち「江戸時代後期の巨星 長久保赤水」は、赤水について長年研究を重ねる同会顧問、長久保源藏さん(91)が執筆した。赤水の出生と学問への目



長久保赤水顕彰会が創立30周年を祝して発行した2冊の記念誌

覚めから、全国各地を渡り歩いた記録、地図作成、水戸藩6代藩主の徳川治保に学問を教える「侍講」に取り立てられるなどの業績まで網羅した。

『江戸時代後記の巨星 長久保赤水』を発行



もう1冊の記念誌「長久保赤水資料群」では、2020年に国重要文化財(重文)に指定された赤水の関係資料693点などを紹介している。赤水は、伊能忠敬による地図の完成より42年前の1779年、日本地図「改正日本輿地路程全図」(赤水

図)を完成させた。先人による地図や官製の国絵図など多くの資料を基に編集し、地名などを緻密に記したほか、天文学も学び地図が正確性に富んだことなどを記念誌で解説している。また農民の出だった赤

水の窮状を訴えて藩政改革を求めた「農民疾苦」を提出し、実現させた。いずれの記念誌でも、こつした地図作成以外の働きについても詳しく説明する。記念誌はいずれも1100円。購入の問い合わせは同会の佐川春久会長 ☎09(1846)6849。

長久保赤水顕彰会

《長久保赤水顕彰会創立30周年記念》

国の重要文化財指定記念誌

長久保赤水資料群

赤水先生の人物像を知りきっかけとなる一冊です！
ぜひ多くの方にお読みいただきたい

本巻では、赤水先生が残した地図や書翰の一部について、その特徴・解説・考査等が示されており、膨大な数に存在する赤水先生の資料のうち、代表的な資料の概要を知ることが出来ます。地図や書翰・書状等を通じて「長久保赤水」の功績に迫ります。赤水先生の人物像を知りきっかけとなる一冊ですので、ぜひ多くの方にお読みいただきたいと思ひます。

国の重要文化財指定記念『長久保赤水資料群』を発行

長久保赤水顕彰会・制作動画のご案内 QRコードにスマホをかざして YouTubeへ

資料群693点

令和2年9月30日登録

祝

長久保赤水

国の重要文化財指定記念

重要文化財指定記念特別展 ～特別展の紹介と解説～

なるほど…がいっぱい。赤水の地図の特徴や資料群について、佐川春久会長が詳しく解説しています。

<https://youtu.be/Qc1KMxwDgOQ> (公開)2020.12.6 16分23秒

